

猪熊隆之著 『山岳気象大全』

近年、天候の悪化が誘因の“山岳気象遭難”が増加していると言われている。山の気象に関する知識は、遭難を防止するための不可欠の装備と言っても過言ではあるまい。山の天気の本は観天望気をはじめゴマンと出版されているが、最新の気象学の知見に基づいた山の気象が具体的に記述されているものは少ない。NHKのお天気キャスターで有名であった村山貢司氏の「山岳気象入門」（2006年、山と溪谷社刊）くらいなものではなかろうか。



今回は最近刊行された猪熊隆之著「山岳気象大全」を紹介したい。著者は山岳気象に深い造詣を持つ気象予報士で、国内のみならず海外の山の天気予報でも評価が高い。著者自身が国内のみならず海外登山にも豊富な経験を持つクライマーであるから、山の気象に関する記述には説得性がある。また、従来のこの種の本には無かった高層天気図の利用方法、気象衛星画像の見方なども詳述されている。特に山の天気予報には欠かせない高層気象の解説は貴重であろう。

取り上げられている山岳は北海道から九州まで地域別に全国がカバーされている。また、シーズン別の天候の移り変わりやその特徴についても詳述されている。何故天気が変わるのかなどの気象の本質についても、多くの図版を使って分かりやすく解説されているので、気象の素人にも読みやすい。

概要ではあるが海外の山岳気象の特徴もヒマラヤ、アルプス、アンデス他などが記載されているので、海外登山に行かれる方は出発前に目を通しておかれると参考になろう。

ただ、日本の全ての地域のローカル気象に精通している気象予報士はいないので、実際の山行に当たっては、その地域の地方気象台の予報官が発表する気象情報や天気予報と併用されることが望ましい。

山と溪谷社 2011年6月刊

(2011年 記)

[「山書の小溪」目次に戻る](#)